

平成18年度「専修学校社会人新キャリアアップ教育推進事業」成果報告書

事業名	女性再チャレンジコース		
法人名	学校法人伊達育英会		
学校名	四日市情報外語専門学校		
代表者	理事長 伊達 則彦	担当者 連絡先	日紫喜 良守 TEL 059-353-8118
<p>1. 事業の概要</p> <p>結婚、子育て等で一旦就業の中断を余儀なくされた女性が改めて就業等に必要な知識・技術(特にパソコン技術)を習得したうえで、再度就職し、男女共同参画の社会を実現する目的で開催する。具体的には、1. 受講者の決定(簡単な適性試験、面接を実施、就職ためにパソコン技術を習得しようとしている人を選ぶ)、2. パソコン授業(タッチタイプ、Word、Excel、検定対策)、3. 就職支援講座(履歴書等の書き方、面接の受け方)、4. 説明会(21世紀職業財団、ハローワーク等)の分野で授業を実施し、再就職の支援を行う。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p>			

●告知活動・・・チラシの作成、配布については、求職者のための訓練で蓄積されたノウハウを利用して、求人広告の中に広告を入れた結果、予想通りの反響であった。その上で、「ニートの支援事業」でご協力を頂いている県庁、市役所に相談し、男女共同参画課を紹介いただき協力をお願いしてくる。

●受講者の決定・・・告知活動の結果、前期説明会(11/6)には、定員15名に対して20名が参加。適性試験と面談を実施して、15名を決定する(内容で2名が、時期の問題で2名の辞退者が出たのと1名は、受講困難という事で不合格とする)。後期説明会(12/6)には、定員30名に対して35名が参加。説明と面談を実施し、27名の受講者を決定(内容と時間の問題で5名辞退、急に都合がつかなくなって3名辞退、不合格者なし)。

●授業時間帯・・・授業の時間帯を午前(9:30-12:30)、午後(13:30-16:30)に分けて、どちらでも受講できるようにしたことによって、女性の方が出席しやすいようにした。

●タッチタイプ・・・自宅でe-learningによる受講を可能としたことで1名受講する。また、独特の視聴覚システムであるサイトアンドサウンドによるタッチタイプ技術をマスターすることによって、その後のパソコンの授業の意欲と効率を高めることができた。

●パソコン技術・・・前期の授業では、全くの初心者想定して入門程度の内容としていたが、受講希望者のレベルは思ったより高いのと、就職を希望する場合、資格取得レベルまで必要という事で、後期のカリキュラムは再検討して、レベルを初中級レベルとして、MOS(Excel一般)の取得を目指す事とする。後期受講者27名中22名が受験をして、20名が合格(91%の合格率)するという素晴らしい結果を出す事ができた。

●就職支援講座・・・履歴書、職務経歴書の作成方法、面接の受け方(特に自己アピール)を学習させ、就職試験に備える。また、就職説明会として、21世紀職業財団の講義、ハローワークでの説明会を実施できた。

②事業により得られた成果

●説明会の実施・・・受講希望者に授業の内容等を詳しく説明する機会を設け、事前に適性試験、面接を実施する事によって、授業の趣旨、内容をしっかり理解して受講してもらい、途中で退校する人を無くした。

●e-learningの活用・・・タッチタイプの授業をインターネット上でも開講する事によって、在宅学習を可能とし、受講しやすくなった。

●タッチタイプ授業・・・独特の視聴覚システムである「サイトアンドサウンドシステム」を活用して、パソコンの基礎となるタッチタイプ(手元を見ずにキー入力ができる)を最初にマスターすることによって、パソコンの授業をとっても効率よくすすめる事ができた。これは、この短期間で、Word、Excelの指導とMOS検定指導に結びついた。

●MOS試験対策・・・WordとExcelの試験があるが、難しいとされるExcelの検定対策を授業として実施し、Wordは、自分で自習し受験できるように指導した。Excel(MOSのSpecialist)の試験を実施(本校は、検定実施校)したところ、合格率91%の実績をあげることができた。

●就職支援・・・働く事への意識を高めると同時に、どうしたら就職試験を突破できるのか具体的に対策を立てることができた。

③今後の活用

●タッチタイプ・・・子育て等で、数年以上職場から遠ざかっている人にとって、パソコンは、馴染みの薄いもので、難しい物であるという固定観念がある。しかし、タッチタイプができるようになると、パソコンに触ってみたいくなり、興味をわかせるものなる(車の運転ができるようになると、車に乗ってみたいくなるのと同じ心境)。だから、パソコン授業の始まる前に、必ず受講させパソコンへの恐怖心を取り除くことが大切である。もちろん、生徒全員がタッチタイプができる状態になっていることによって、その後のパソコンの授業効率の良さは、計り知れないものがある。

●資格取得・・・パソコンの授業を実施するだけでなく、最終的に資格取得まで結びつける事によって、就職活動で自信をもって、「パソコンができます！」と言えるようになる。また、派遣等で仕事をする場合は、このMOS検定取得というのは、登録の条件にもなっていることもあ

④次年度以降における課題・展開

- 募集について・・・告知方法を求人チラシで行ったが、1企業のパソコン授業の募集のようなものになってしまった。もう少し県、そして市の男女共同参画課の協力を仰ぎ、活用すべきである。
- 受益者負担について・・・今回活用した市販されている教材の負担について、説明会では、無料であると説明して、後で有料であるという発表したため混乱をきたしました。今後、受験料も含め、受益者負担について、どこまで負担させるか明確にしておくべきである。
- 生徒間のコミュニケーションについて・・・専門学校(2年間)や、求職者の訓練(3、5ヶ月間)のように長期にならなかったため、クラス運営に注意を払ってこなかったが、生徒同士のコミュニケーションを図れるような取り組みをすべきであった。そうすることによって、生徒同士のいろんな意見交換、相互扶助等が期待できる。
- 厚生労働省とのことについて・・・厚生労働省の求職者のための訓練と、この事業の線引きをもう少し明確にして、特色あることをすべきである。そして、子育て等で、就労してこなかったため、雇用保険受給資格の無い方の支援となるべきである。しかし、最終的な就労については、厚生労働省管轄のハローワークにお世話いただくことになるので、各地で説明会等を実施して下さるよう、文部科学省から申請をしておいていただきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①キャリアアップ講座の実施

	開始日	終了日	授業時間数	受講者数	授業の内容
前期	11/20	12/15	45	15	初心者を対象に、タッチタイプ、ワープロ、表計算、就職支
後期	12/19	2/28	118	27	基礎・中級レベルで、文書処理、表計算処理、MOS検定対策(Excel)

前期、後期を通して行われた授業について

○タッチタイプ・・・前期13時間、後期28時間の授業をe-learningを使って在宅学習ができる環境で実施。

(受講アンケート実施※)

1)

○パソコン授業・・・ワープロ入門(前期9時間)の授業で、Wordの入門編を学習
表計算入門(前期9時間)の授業で、Excelの入門編を学習
文書処理技能(後期24時間)の授業で、Wordの基本操作から、中級レベルまで指

導。
表計算処理技能(後期24時間)の授業で、Excelの基本操作から、中級レベルまで

指導。
MOS試験対策(後期33時間)の授業で、MOS(Excel Specialist)受験レベルまで

指導。
○就職支援・・・前期14時間、後期9時間の授業で、就職のための履歴書・職務経歴書の記入方法、面接対策として、

自己アピールの仕方、模擬面接の練習等を実施。前期は、ハローワーク説明会も実施する。

(受講アンケートを実施)

※2)

授業を通して、専門学校、求職者の訓練等で培われてきたノウハウを、女性の再チャレンジコースで活用してみて、その結果を見ることに重点をおいて実施する。概ね、当初の計画通り授業が進み、後期のMOS検定では、91%の合格率を出すなど、成果を出せたと思われます。

②その他

授業が始まる前に、説明会を実施し、途中で思っていたのと違うと退校していく事を防いだ。また、同時に実施している厚生労働省の求職者の訓練との違いを、明確にして、この授業しか受けられない雇用保険受給資格の無い人たちを対象とした。また、受講者が受講しやすいように、時間帯を2つに分けて実施したり、在宅学習ができるように、e-learning授業を取り入れたり、託児所を設置をして子育て中の人でも受講可能とするなど様々な工夫をした。また、カリキュラムでは、初心者のために、タッチタイプ授業を最初の実施し、キーボード操作に慣れさせておいてから、パソコン授業を行うなどの工夫をして、限られた時間での授業を効率を上げた。